

しが国際協力親善大使レポート

かなざわ まさふみ
金沢 正文さん

隊次：2017年度3次隊

職種：廃棄物処理

派遣国：マーシャル

自己紹介

草津市在住。大学～大学院は工学部機械系で学び、エンジニアリング会社にて環境アセスメントを中心とする環境コンサルタントを25年間、流体機械の設計など合わせて35年間の会社員生活を終えて、2017年8月に60歳定年退社。学生時代から続けている山の先輩が参加していた姿に憧れて、長年温めてきたJICAシニア海外ボランティアの夢をやっと実現。2018年1月よりマーシャル諸島共和国のマジュロ廃棄物処理公社にて活動中。



「←現在、マーシャルの日々を「マーシャルあわさい」にて発信中」

マーシャル諸島共和国（以下マーシャル諸島）の紹介

マーシャル諸島は主に大小29の環礁と5つの島からなる島国です。人口約5万人のうち、約3万人が首都のあるマジュロ環礁に集中しています。ちなみに、環礁とは火山島の周りに発達したサンゴ礁が火山島消失後も陸地として残ったものです。空から見ると「真珠の首飾り」と称されるように、美しい環状の島地形を描いています。



「機上から見たマーシャル諸島（首都のあるマジュロ環礁）」

活動の紹介

・マジュロ廃棄物処理公社（以下配属先）の現状

配属先では、首都マジュロで発生するゴミを収集、処理、処分しています。マジュロ内を地区分けして、各地区週1回日本からの援助で導入したゴミ収集車で収集しています。ただ、処

理といっても集まった混合ゴミから人手でアルミ缶、PET ボトル、ガラス瓶などを引き抜き、そのまま積み上げ処分するだけです。結果として、写真に示すように地元で Mt. Dump と称される巨大なゴミ山が日々成長しつつあります。

私の任務はこの Mt. Dump の成長を少しでも抑えて、配属先の処分場としての寿命を延命することです。とはいうものの、限られた予算、設備、人的資源でできることは限られています。その制限の中で、できることを現場で日々悩みつつ試行錯誤しています。



「Mt. Dump はマジユロ最高地点（高さ 17m）です」

・これまでの成果

配属先では4R（リデュース、リユース、リサイクル&リターン）方針のもと、ゴミからできるだけ多くの資源をリサイクルすることによりゴミ減量化に取り組んでいます。この取り組みのひとつとして、飲料容器のデポジット制度の立ち上げを支援しました。

飲料容器デポジット制度とは、アルミ缶、PET ボトル、ガラス瓶の容器入り飲料を販売時に1本あたり6セント上乗せて（デポジット）、空き飲料容器を配属先に持参すると1本あたり5セント返金するという制度です（残り1セントは手数料）。この制度の長所は、持込みゴミがその場でお金に変わることで、住民自らが積極的にゴミ収集に参加するきっかけになることです。

この制度の立ち上げ準備段階では、時間を決めてもなかなか計画通りに進まず、「マーシャルタイム」と言われるゆったりとした時間の流れに、イライラすることがありました。しかし最後にはつじつまが合うことが多かった気がしています。逆にマーシャル人の仕上げの馬力には感心しています。そんな中で、配属先の仲間たち、JICA 事務所の方々、マーシャル政府や日本政府の人たちに助けられながら 2018 年 8 月 13 日から飲料容器のデポジット事業をスタートすることができました。

開始当初は、まさに山のように集められてきた飲料容器のため、処理装置（アルミ缶・PET ボトル圧縮装置）が悲鳴をあげることもしばしばでした。それでも、休みの日に近所の子もたちが嬉しそうに投げ捨てられた空き缶を集めている姿を見て、ちょっと大げさな表現ですが「マーシャルの歴史が変わる瞬間」に立ち会えた幸運をかみしめています。



「休日には子どもたちが空き缶拾いに熱中」

・今後の予定

なんとか飲料容器のデポジット制度はぶじ立ち上がりましたが、まだまだ Mt. Dump は成長しています。アルミ缶は圧縮、海外輸出によるリサイクルができていますが、かさばる PET ボトルは圧縮しても引き取り手がいません。この PET ボトルを有効利用することが次の課題です。最終的には Mt. Dump そのものを再掘削し、土を分別、減量して延命することです。

まだまだ道半ばですが、日々ワクワクしながらあと1年配属先の仲間たちと廃棄物処理の改善に取り組む予定です。



「リサイクルセンターにて配属先の仲間たちと」

しが国際協力親善大使レポート

かなざわ まさふみ
金沢 正文さん

隊次：2017年度3次隊

職種：廃棄物処理

派遣国：マーシャル

自己紹介

草津市在住。会社員時代は主に環境コンサルタントとして、環境アセスメントなどに取り組む。2017年8月に60歳定年退社。2018年1月よりマーシャル諸島共和国のマジュロ廃棄物処理公社（以下、配属先）にて活動中。詳細は下記リンク先の「マーシャルあわさい」および「JICA世界日記」（JICA HPより）をご覧ください。



「←現在、マーシャルの日々を「マーシャルあわさい」にて発信中」

マーシャル諸島共和国（以下、マーシャル諸島）の紹介

マーシャル諸島はサンゴ礁が環状に連なった数多くの環礁からなる島国で、「真珠の首飾り」と称されています。私は首都のあるマジュロ環礁で活動しています。内海はLagoon、外海はOceanと呼ばれ、毎日穏やかなLagoonの水面を眺めているとまるで琵琶湖を眺めている気分になります。



「お互いに通じるところがある琵琶湖（上）とマジュロLagoon（下）」

活動の紹介

・これまでの成果

前号（第 32 号）では、配属先の紹介ならびにトピックスとして飲料容器デポジット制度の立ち上げについてご紹介しました。今回はその後の活動として、OPM とゴミ堆肥への取り組みをご紹介します。

OPM とは One Point Manual の略で、配属先の職員向けの教育活動です。職員の人たちは日常業務にとっても真面目に取り組んでいます。ただ、何のためにこの仕事をしているのか、この仕事の意味は何なのか、そして、この仕事により良い環境を維持するための大切な仕事だということを学ぶ機会が職員たちにはこれまで皆無でした。

少しでも自分の仕事に対する理解が進むと、きっと自分の仕事に対する誇りも芽生えてくると信じています。そこで、廃棄物処理に関する基礎の基礎を学ぶ機会として、毎月末金曜日昼休みの 15 分間を利用して OPM をはじめました。始めるまでは、みんな集まってくれるか、最後まで聞いてくれるか、ドキドキでした。いざ始めてみると集まりもよく、最後まで熱心に聞いてくれている様子。最近はお弁当付きにグレードアップ。十分理解はできなくても、何かワクワク、楽しいと思えるのが大切。たぶん、環境教育にも通じるものがあると思います。



「OPM での一コマ、
みんな熱心に聴講中」

次の大きなテーマがゴミ堆肥事業の立ち上げです。搬入ゴミの中で、空き缶、PET ボトル、空き瓶の飲料容器の次に大きな割合を占めるのが伐採樹木等の廃棄物（以下、Green Waste）です。これを削減する取り組みとして、現在 Green Waste を主体としたゴミ堆肥の試作に取り組んでいます。この事業は単にゴミを堆肥にするだけでなく、高品質な堆肥を生産することにより、Green Waste を発生する住民にとっても、高品質な堆肥を望む消費者にとっても、そしてひいては環境全体にとっても良いこと、つまり“三方よし”ということを上での OPM でも強調しています。



「ゴミ堆肥試作は順調に熟成中です」

・今後の予定

任期も来年2020年4月までと残り少なくなってきましたが、ゴミ堆肥事業の本格生産へのメドをつけるべく、最後まで焦らず、慌てず、諦めず、配属先の仲間たちと取り組んでいます。ここで得られた貴重な経験、出会いは人生の宝もの。教える以上に、教えられたものが多くあります。帰国後はそんな思いをより多くの人と共有できたらと考えています。

以上 (2019/12/10 10:30 記)



「ゴミ山(通称Mt. Dump)前で配属先の仲間たちと」